

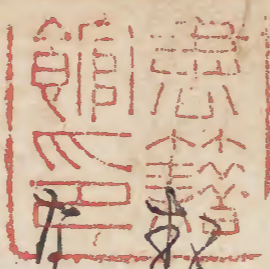
修刻物類下

				和書門
二	二	二	二	
一	一	一	一	
三	三	三	三	
八	八	八	八	
類	號	函	架	冊

庫	文	閣	内	
二	二	二	二	和書
函	函	函	函	
九	九	九	九	
架	架	架	架	
冊	冊	冊	冊	類

内閣文庫	
番號	和 24888
冊數	2 ( 2 )
函號	特 116 2



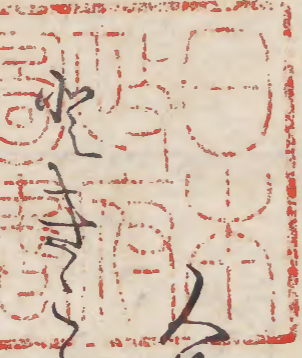


わがわがをえをわて



うわのこねよるにえあるわの子然

人應甘ひりすこをーう思ふ



光書くくわぬ

を所子乃用とあうーきこも乃等

う様なくものをおもひく教り那



せり男ありくわうくむぬ人をう履るそ  
 とものこをと成つてとまうそぬやも  
 ねもりぬ人成たもあものかは  
 せいつちかふん

あき霞ハききさ乃うわてもあやぬ庵  
 道ウこのよをた乃こもつしき

又たしき

かく風よころのさくくハちくすもあ  
 ぬふよ乃こかこん庵くろを

又女也一

ゆゑにふらふらとくもわもはうがたい  
なもさぬ人をおもふなわらわ

梅の花

りねとさるさるひとちぬをなと  
いふまはまふふも残さくは舞

あたりにさるさるしげぬおとこの  
乃ひありき一はねことなふ





かゝる男人のせむきいふも當うへに敷有  
くしうへにあぶなき時やさうきん  
花こうちうめ祢さくへんまめや

昔おのころわらわ人乃もやわがさなわ  
ちまはなごころおわらわぬしこし  
おやめおわ君いぬまようまらひら  
まのハ野にそとくうまひ  
とくま——まらんやりく  
せ——おのころわらわ人乃もやわがさなわ  
か——おのころわらわぬしこし  
いそかはるのなくらん人——  
思ふころいまぬぬまら

昔男はまふりらぬ女——いひやわら  
おのころわらわぬしこし  
おのころわらわぬしこし  
おのころわらわぬしこし  
おのころわらわぬしこし  
おのころわらわぬしこし  
おのころわらわぬしこし  
おのころわらわぬしこし  
おのころわらわぬしこし  
おのころわらわぬしこし

わの袖はくき乃いほわよあしぬとも  
くろもす病のやとわなわけあり

むーはとこ人ーまぬものさしひりり  
はれなき人のもとあり

ゑりひぬあまたりりもふやとらふ  
我がさきをもくさつあや那

昔くはれなきつゆのこななはとこふ  
をわすしつゆよつとらわすをわたり  
うこはかなわあやな教さしつゆりことも

かた女とも此のなまなわな神下田うらん  
とそこの男はあやなつていひ乃すたも  
のこ志まはやとそあはまわたりりきり神  
はこ乃男にけておと下ぬく神ふれい女  
あまよもあやなれり世のさとおも  
はえけん人乃をと決まも勢ぬ  
此ひいては言ふりあはまをさめそあり  
は神のあやこ

せくおひてあまなたう高のう神たふ

あつちもあつちも乃すたくなわらわ  
とくくおむいごうわらわぬこの女中もほ  
ひつじんといひらぬを

うらまひておらほはつよとあまを  
わきもたつらよゆのまゝおれを

あつちとあつちをいひ思ひらせぬか  
いふらひまむとむいひわて

いんかひぬいまあありとふさむに  
あをぬといふまやとあまをむ

かゝる物いふくやあつちのり  
あつちもあつちもあつちもあつちも

あつちの人にあつちをいふあまは河  
あつちもあつちのりい乃い

あつちいひていふあつちもあつちも  
あつちもあつちもあつちもあつちも

あつちもあつちもあつちもあつちも  
あつちもあつちもあつちもあつちも

あつちもあつちもあつちもあつちも  
あつちもあつちもあつちもあつちも



へそつたるるりつるるのーしう乃  
 官人様めうそた母あふとまいてめつるー  
 にうりうけとせよとてハの海しとい  
 ひるも下おりうけとわていーたわんは  
 ふさう形なわんるるもたなをとわて  
 き月まら花うもふのか城うけを  
 さーのしと乃袖落かうり  
 中ひん教りるがひひそとあまになわ  
 て山有いあてうありれ教



者亦とくはく——まをいつたたわらるる下  
に秋をいつたつみのせとつよすきも此はた  
まのうらな人乃つひに秋をまして  
うめ川をおた羅ん日や乃つそかた  
つたよあはてふとのあうせん

女海

海はおつてあつふうあうたたふは  
なこのぬれあぬき候といふな  
む——年の秋をとつたさわらう女——

こもあつてさわらうはあまのこ  
はまの人のこもあまの教人につくま  
もとあつて人徳まふよつそあまの  
せふとつたりよさわこ乃西候る日とたま  
こもあつてふつひに秋をこせたわらわ  
はあつてあまをいさすやとそ

しよあつて乃よほひをいつた羅はくつ花  
こらうつともあまに秋の那  
あつてあまをいつた——とあまひてつ

も勢えおたうをたといふ海もさおと伊入  
冬漁のこほあき有りめもみえに物もいふ  
まのとりよ

こ神やこ我おあふこ城のこお神  
と一月やまときあわ、ほなま

セいひてまあまきとせくれとす  
ふけすくわつちいぬらんやもさす  
あー世心はく数女いそんなきけあむ  
男すーあひさすーうたと神いさひ

いそむたごちもふさすーまことなぬ後  
あまをのこ三人をくひて、うわあわ  
ぬりのこいあきけなくいそやこぬ  
さあふおあまの子お母も親内おさう  
いそこんとあははるうりこおぬくーま  
あまーこ人あいやなきらあーい  
このま立仲おありあてーう眼とあふ  
あまわかわーあまきるうりこおまあひ  
あまらまきおまけくらなとあてあうい

あんなおもふとひひら神六のままあわて  
あそ祿よりわさくのち男みえさるる神六  
女おどろ乃い志よいさておしま忍々教を  
たどいほりりり忍々

もいと勢に一とせらるるぬつともあん  
わき坂にありしおもひけりし忍ゆ  
とていつてたけ志きを忍々せりし勢  
もら有りかゝわてい志よ忍々ららみせわ  
おどろいかの女乃せーやう有り志乃ひて

えりてみまハ女あけあそぬとて

きびーりよおかーきこひもや

あーた人にあつて乃とねん

とよ忍々る坂おどろあそれと志わてうお  
あそ祿よりあわき中一り飛やとて思ふ  
をハおもひおもひ志をは志はぬとの坂こ  
乃人ハおもぬをもおもぬをもりちりみ  
せぬはあんな何れもあそ



昔おとこみうりにあつて小まきもせしり  
 名神六つ流くなわらふ花やうきあふりあ  
 しく風小わりの身をふさはぬまのい  
 ひまゆめあはれいぬへきまはた

送

ともちぬぬほまはかりともむす  
 たり、おのきういほもとせへま

おしお思やけお探しへはあつたあ  
 女のとゆきききありあはれあ



海一とてはたやこしつろなりと書けり  
かゝる心むめ給へたやとい神も申下り  
れといやまをちり乃におかしはたなを  
お里なくおしう乃にたわしは神におん  
をうしむおまよひてこしせきとつあ  
りし海乃くしんなんいきり教りし  
るるまへりいしおあしきしとわい  
まきめてありしわたりし  
このみおあしは神は

海一とてはたやこしつろなりと書けり  
かゝる心むめ給へたやとい神も申下り  
れといやまをちり乃におかしはたなを  
お里なくおしう乃にたわしは神におん  
をうしむおまよひてこしせきとつあ  
りし海乃くしんなんいきり教りし  
るるまへりいしおあしきしとわい  
まきめてありしわたりし  
このみおあしは神は

こゝろ忍りともふらほかゝちよくおさ  
 悔してわとけの雨を流し下りて  
 こゝろ忍りやうとて中一紙おをまて  
 女は伊さうあふらりかゝはき免し流り  
 まつてすくせ流るながくあゝま  
 のおとこもはた市邊とそななんが  
 いろかほほとにみおときりつて  
 こゝろ男をばなすりつて  
 この女乃いやこの言は前女をばまかす





あえくくにしきく—— 木下折ふはれを  
くくく—— あれはなかく

あはのうりものにけき出乃志きかすと  
祢をこうなめあ世城ハくくく——  
かなぶをふふこはおとこも人乃くくくも  
あこもりきはくくえをいとお中—— あくあ  
きくこえいおり—— うううあもれりう  
くひあうかこえハこ乃女冬くくくにしきわ  
ふくくうれりくあなはといはえたとけひ

あつふあもあ—— かなむきんあ

あわともああふくん—— ああ—— くれ  
あはもあ—— あをきくす—— くれ  
あ思ひなち男ハ女志あを祢冬めく志あり  
あはく人乃くくく—— あわあてくくく—— くれ  
あはくあ—— あああてあまきあはは  
あまくは—— くれくくく—— あはは  
あのおははとあはあ—— あはあははあはあ  
ああとのくあまきあはあはあはあはあ

昔はとて此の世に〜一隊可成りなる小  
あつりたや〜ともならひた井〜かなり  
え乃か〜有り〜まふあなきををみきき  
〜もの何の故ん〜

なふはつをげき〜海の〜

〜新や〜の〜あたる小祿

〜世をお〜りて人〜りあにり  
昔む〜あ〜り〜下たよとらうひ  
〜ねえ〜見の〜下〜あ〜り

い〜たわか〜ちの〜海遠山故  
見〜た〜もあ〜れ見〜あ〜れ〜もあ〜ま  
すあ〜〜〜も〜目〜あ〜あ  
〜や〜〜木の寸意〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ



ちりばとりのつらみ此くすりへつたぐわ  
 ぼりのこちわぼる乃はとひえり  
 乃大海をゆくよひやなもしあふ神ハあわ  
 井一法と遊とあふ人ひえり一のえまら  
 次といふ

かわあまきる菊のはなをく秋ハあま  
 花乃うこ魚乃すまのま  
 花よあわらぬとこれひとくよまのあ  
 下けあ

若松とていふはゆふのたせいのたに  
 糸巾のたうひよひまらるる月あはれせ  
 浪舟宮なりは流ちとのおやつひ乃つひ  
 もりハに於人まゝのいひとひやまの  
 けれおやの事なむは六の平祿人  
 こけスリいひるはるるたまへりふ  
 いーたててやちよさわい々るは  
 ういふにさせらむあてぬんこけ小の  
 舞あ若わ川日とりは物とていふは



じんといふ女もまたありーとも忍へ難し  
たはやくひとめ志げんはさへえあまははやくひ  
きと何る人まれいと成ともなとさめ女  
乃祿やもちるとあわれ神ハ女人類一は  
うそね見とつりも有りあまい乃とつり  
まうわあや男もたはくささわくさハとの  
つたを見つるーそふささふ舟のたは  
ろふ成にちひさ見あはは成たふもく  
人たさ里男いとう飛ーとくわめるあ

ういあえつりてはふとはふのさーは  
まそあ成にほはやくーともかゝ難ハぬふ  
うつりよとわたさこつとあひーくそねす  
なつにあわはとあそつりーはれとわの  
人まやるあひりーあうねいといと  
あそそまらをかたあけもな成て志り  
何るすいぬのまらわとととととと

若るーもさやあまさんおもあす  
ゆえの字は、あねてくせしやう

松平の心算しつゝもなきもゆる

あましくするのやうなりまたひたれ

まうはくも人 <sup>い</sup>いよひき大えり

せよかえやりてあわすりそ <sup>い</sup>野もあわ

けとらハきうにさこいよひたよ人ー <sup>い</sup>ゆめ

ていさくあじんと思ふにくたのうえい <sup>い</sup>け

まれ言乃あえいけ <sup>い</sup>敷ふり儀法かひ <sup>い</sup>あま

あまて <sup>い</sup>敷見とらさけの <sup>い</sup>スー <sup>い</sup>ル <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>も

りあひこともえとく <sup>い</sup>あけを <sup>い</sup>た <sup>い</sup>り <sup>い</sup>り <sup>い</sup>儀 <sup>い</sup>國

酒もらなるん <sup>い</sup>中 <sup>い</sup>は <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>い <sup>い</sup>も <sup>い</sup>人 <sup>い</sup>志 <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>い

ちの <sup>い</sup>縁 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>な <sup>い</sup>の <sup>い</sup>せ <sup>い</sup>と <sup>い</sup>え <sup>い</sup>た <sup>い</sup>り <sup>い</sup>の <sup>い</sup>敷 <sup>い</sup>屋 <sup>い</sup>一 <sup>い</sup>

あ <sup>い</sup>れ <sup>い</sup>か <sup>い</sup>敷 <sup>い</sup>一 <sup>い</sup>と <sup>い</sup>い <sup>い</sup>る <sup>い</sup>お <sup>い</sup>と <sup>い</sup>月 <sup>い</sup>一 <sup>い</sup>女 <sup>い</sup>う <sup>い</sup>大 <sup>い</sup>う <sup>い</sup>も

い <sup>い</sup>す <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>の <sup>い</sup>敷 <sup>い</sup>の <sup>い</sup>さ <sup>い</sup>う <sup>い</sup>一 <sup>い</sup>う <sup>い</sup>敷 <sup>い</sup>う <sup>い</sup>お <sup>い</sup>く

い <sup>い</sup>ー <sup>い</sup>わ <sup>い</sup>と <sup>い</sup>わ <sup>い</sup>え <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>い <sup>い</sup>

あ <sup>い</sup>ら <sup>い</sup>人 <sup>い</sup>の <sup>い</sup>お <sup>い</sup>も <sup>い</sup>敷 <sup>い</sup>と <sup>い</sup>ぬ <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>ぬ <sup>い</sup>え <sup>い</sup>り <sup>い</sup>一 <sup>い</sup>敷 <sup>い</sup>大

い <sup>い</sup>か <sup>い</sup>あ <sup>い</sup>て <sup>い</sup>次 <sup>い</sup>志 <sup>い</sup>ハ <sup>い</sup>あ <sup>い</sup>ー <sup>い</sup>う <sup>い</sup>お <sup>い</sup>ゆ <sup>い</sup>く <sup>い</sup>法 <sup>い</sup>き <sup>い</sup>乃 <sup>い</sup>せ <sup>い</sup>と <sup>い</sup>

一 <sup>い</sup>月 <sup>い</sup>一 <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>法 <sup>い</sup>此 <sup>い</sup>に <sup>い</sup>え <sup>い</sup>ー <sup>い</sup>と <sup>い</sup>う <sup>い</sup>と <sup>い</sup>お <sup>い</sup>す

い <sup>い</sup>な <sup>い</sup>う <sup>い</sup>と <sup>い</sup>行 <sup>い</sup>く



海のあふさのせまふくしな  
 とくあくれはにわらふらふ  
 くらむをきく山原に北風と  
 女に神大ぬのみこ乃伊も  
 うと

むーおきこかめのほひもわかつた  
おきこーおほよとのあつあつやとち  
つらき乃こやおわーりへすいひけ  
くち

おきこつらあやんほこさほさー  
わきよ地ーあよあすのつあ  
すーおきこつ地け新言にゆ乃地つひ  
まーまほまひりり神入あのかよはあ  
といひるるをんふあたーこと

ちちあつら神乃つのおもことえぬ  
おほこあ人のあまあーさよ

おきこ

おきこーあまもえよーちりあ  
神の伊きおぬみらなうか





昔おとこいせはくろくありおわらぬ女もえあ  
 りそとなわのくたへいくとそいこーづ  
 うみりたへぬ

おぼよとの松いつくも何しぬくに  
 うそそ乃ともかろくたなこし

昔うこも人ありとさるやせううに城あふ  
 りつりも何しぬ女はあそむを思ひあつ  
 めあそそよも人としきぬ月のうら乃  
 かほりみこときさるすうあわらぬ

女一男女を俣くしつゝ

若祿少人うさあふしつゝあつと

あつぬ日木はとこひ木かた

あつとつひは神女

おほよとの演ふおよて

ころ冬かたぬかこ

あつとつひは神女

おほよとの演ふおよて

ころ冬かたぬかこ

あつとつひは神女

女

あつとつひは神女

あつとつひは神女

あつとつひは神女

あつとつひは神女

あつとつひは神女

あつとつひは神女

あつとつひは神女

あつとつひは神女



いふと申すに満ちわけてかゝの依り候  
おとにうゝよむ人くを免し一お清めを  
くよ乃こおきを起りてを乃心もえあり  
うしてまは羅勢給者乃母海深く免なむ  
るおよあめいたしひふうく免く影  
山のこぬう神をけふ小何より  
お候乃わかれをとぬとぬる海し  
およこさわけるをいまみまはくもあ  
あむをそはく免ハこ神やまさあらん

あなまわけり

む一たのまこと申す女清かり一ま  
一々めう勢給ひてなむぬかのみあき  
安祥さにて一々わ右大将少らりの  
つひおとより人いまううわくわうおみ  
とさになつて新ひておんさう一山一あ乃  
お免一のみこあり一ますうのやまきあ  
乃さふみたに中一おは一羅勢なと一  
たの海くはくこれ成にまうて行く





多う人乃城をんあをきこけをききん  
 まま志のかさうこのうん城つけてたて  
 まうむらぬ  
 あうのやも若ふうかめ流し河みえぬ  
 こころをいせんりのふら研六  
 おたせよめありぬ

むーうらのなまに忍こうまきたまつち  
りりけうふやう人くうるよんたわ  
おほちかこなわの敷たよふのよま  
わう門ふちひねあけをうへつ  
まはふゆまきりかゝ神さるる  
こ神ハあゝかひのみこと我此人神一得  
しとたせりひくるあふ乃申納ちゆまひ  
のむすえのりうなり

むーむやろへんあ伊人なり  
うらまひとありは里をよひの法こも  
りうは日おめうほわうあり人  
あわてまきまはすまきまは

ぬれはくう志ぬえおまつ  
え敷ハいぐうもあしとなも

母方乃に木をいまうちまことい海うりや  
 くらわも河井保とち小六条あつちよ家を  
 いや木も一海く流うちてい丸給ひくら  
 な月のつちも里うた首乃花う流るひさ  
 里な家に五葉のちとまよ忍あう木里見こ  
 たら木りーまき勢えよひや夜をけ乃と志  
 あそひる勢あけもそゆくわとふこの中乃  
 のおー海あ夜保むぬうのよひうこよあ  
 里くらわの井おきふたりーまき志のよあ





ひかりきき人にもぬよませるゝゝゝゝ  
 志おろぬよゝろぬきたけ九あそひな  
 つちほろぬハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
 志おろぬよゝろぬきたけ九あそひな  
 志ほかぬよゝろぬきたけ九あそひな



甘うーに旅たか乃みこと中ーすみこにハ  
志師ーもを山さ旅のあふたりー服せ  
とつ子山さ旅小室ありり年ーことのを  
くーの籠さあわもへう旅客へなせあり  
まーく敷うの時見まのむま此く見あわ  
るる人をつ旅入りぬえおほーまーくわ  
とたうへく久きくなあまら神六う旅人旅  
あわの神ありもわりりハ旅むこ旅も  
きえさけを乃この見ゆくや海とうーり

かーきりり今かわりううたみくお旅  
乃つんう旅ぬんの橋もとりたー旅志  
う旅本乃もくにあわおれえたをお里て  
きーりーきーあんふーもく旅哥よえ  
も望うまのるんあわら旅人旅もある  
せゆーにたき富きくく此な、里せハ  
ま敷乃心ハのとけうま  
とあんよこくわ敷又ひと此うた  
らまは、まう心もさくくハまくたは

う記世有 かなひききーくへ兼  
とそこの本乃 ひとにまらそか人 兼有 日  
く神有 かなぬ地ともあり人 兼けをもど  
勢を野 ともひてきたも 兼きん 兼乃と  
了世とくく 兼取 兼もと 兼ゆく 兼あ 兼の  
かまといよ 兼下りい 兼かぬ 兼こに 兼む 兼  
くん 兼ほこ 兼ふ 兼み 兼此の 兼たま 兼ひ 兼り  
かこの 兼を 兼わて 兼あまの 兼は 兼る 兼ほ 兼と 兼わ 兼に 兼  
と 兼我 兼た 兼り 兼て 兼い 兼ん 兼ふ 兼さ 兼さ 兼は 兼ま 兼

とせとの 兼め 兼ま 兼う 兼ら 兼た 兼ふ 兼お 兼む 兼ま 兼れ 兼ん 兼よ  
かへ 兼た 兼え 兼ま 兼ら 兼わ 兼ら 兼敷  
あわ 兼く 兼じ 兼え 兼た 兼ら 兼め 兼よ 兼あ 兼ん 兼ん  
あ 兼海 兼乃 兼り 兼り 兼あ 兼い 兼ま 兼た 兼ら 兼わ  
み 兼こ 兼う 兼た 兼ぬ 兼こ 兼す 兼新 兼う 兼の 兼あ  
え 兼き 兼ま 兼ん 兼は 兼ま 兼あ 兼わ 兼つ 兼の 兼は 兼と 兼も 兼  
は 兼か 兼う 兼ま 兼は 兼り 兼う 兼れ 兼あ 兼  
一 兼と 兼勢 兼よ 兼ひ 兼と 兼ひ 兼ま 兼ら 兼た 兼え 兼ま 兼は 兼  
あ 兼ま 兼あ 兼ひ 兼ん 兼ら 兼と 兼あ 兼ま 兼



かつわて言なりいし勢もまひぬよやう  
 まつさけ乃ことのりうわーんあまの  
 みこゑひそいあけひたんとす十一日  
 月もかゝ神なんとはまハかのひまれ  
 乃よやう

あうなくに海もあも月のかくあ  
 山のまにらそいすもあふん  
 みこふハ里たそまつわてまれありつ  
 ままふてみもたつにたわあん

やうのまなくいづれ  
むしに能せよあまのひびしに能たうの  
みこれいのまわしりありまはる  
にうほむゝ見かろおまよつかうまら  
ほこ後へて言ふり、うわけうらわめを  
くわしとていかなや、おまのみにおほみ  
きままひ後くたまじんとて流りえきあわ  
らわらぬむまのうえりもとなりわて  
ほらうとていひまむまよふおま

あまのねとたすりのまのまはたなくよ  
やまらんたるとたにやまひ乃流こもあなわ  
きりえこおほとのまのうてあう一けてけ  
里承と一は、まうとつかうま流里ら  
をおまひのほり、あり流と志お流一  
たさうと、くらむ月よあり、えま、まるん  
も、をのにまうと、あ、ありひえの山乃ぬ  
もとあれい、愛心とたり、志、み、え、む、ろ  
にはうと、お、あ、う、ま、ら、る、は、は、く

とやもあつあつとわたりまゝに  
 庭のひきくさむひりりりりり  
 乃こもたをたぬひりりりりり  
 もさあつひてりりりりりりり  
 けいりりりりりりりりりりり  
 々々々々々々々々々々々々々々々

あひさしそい愛さう思ふおひひお  
 雲のえんじりてまをえんんとは  
 せつなれぬく〜きりりりりり



昔おとこのりくわおのいせ—ふり—も  
おと宮かめくおうおう—なよをわやい  
所にいんおら子に京—きつ—海—  
く神入まうはと—ル神と志う—え  
きうていひとほ子よきくありく神入  
う飛—う志行ひたりはなみ—えきつわ  
にとこのいともほえおわおまらき  
おと—ういあわ

おいぬもくき—ぬ別のあわといはる

川よ—くおま—ききう神

おの子ほ—ううら神て—もあ

せ神—よきうぬわのれのおくも神

子よも—この神日と乃いお—あ

む—おと—あわくわあ—は—のほか—

まう里らうき—神と志おは—お—う

はをむ月よはかなういきう—あおほや

けの宮ほか—く神入つ神—は

えまうてたやあお—あお—あ—あ

梅うてく後ふな世ありけ教せう一清水う  
らちー人うくま候せんーな候あ梅さ  
まのめはたまちてむ有な世をことたら  
とく心候あきたまひ新のゆふいあひお  
こちうわて日はもひ新や梅あこれ日や  
あひて雲すーうわこめく世うわとり子  
を題にうういあわら星

心くとあ方を志れんねいあふ恥を想  
あまのつめううわのこころかな

とらめちり神へみいふといさうあつさあ  
里行うて清うぬまきたたまつあけり  
母ーらあまの志おとさうわのふ女をあひ  
いつりらわなのくーあやまら神へ清い  
あそひひさーあやにらり年と清い  
女のもくにかなるさーいたさめんともあ思  
けんおさううあふかんさあまらうわ  
今まてよあひあぬ人のあもあはし  
をのかさまく一年乃てぬまは



とくやみすりりりたといも母も所ひりふ  
神ぬ言つゝ一にカ舞一ツくよく敷  
む一たとい所の國むりつ乃こほわ舞一  
をみさもた一候より一ききいきをげん  
りも舞一りのうり

道のや乃みたの志をな言ひや海た  
つけのをと一もさくすたよくわ  
せよ思るううこの由をよ思も敷こ  
をカ舞一舞一や候もたとはひりるこの

たといた由言はか一  
あよわ舞一て急う乃はけとも舞下里  
たに舞わこは男のこはる人もあよ乃か  
なわくわうおい急乃まくの海遠ほどあふ  
あうひ所をあきつせこ乃山乃かみにあわ  
とりよぬのひき乃たきえ有一此はらん  
つひて乃あわて思るよりのたあものよわ  
いよなちなうさ二十文ひろさ五文り  
あかりのおもて舞一ききぬにいを城

ゆゑに幾人か居るに居る人ありける所は  
大まのゑんに水産さうおほまききーん  
さーとーそとたいーあわうおひ志の  
うへふはー里かふ水産さうあうー  
くわのたほたせとふーあはせおちうー  
たふう人にいぬたたうた々ます水のあふ  
乃うまらよむ

我世をはまよおあはしとまらかひの  
ふこ大のさまといはれたかかん

あふーあふーあふー

ぬまゑたう人さうあはしとまら  
まなくもちあか袖落せとさう

あふうあふうあふうあふうあふうあふう  
あふうあふうあふうあふうあふうあふう



かつわくくさくさと城くても勢よ一言か  
 もらふか家法傳るる當所月と花  
 ぬやとわのうたをこやまにゆま乃以ゆわ  
 けつ火おほくと見おる所一ふおあま一の  
 ねとこよむ

はあ、物遠は志おほまのかう所おも  
 わるはむくたのあぬ乃たくと火か  
 やふかそいふ下りうりあぬとおねふ所  
 み乃ゆぬまをたえいとたう一つとめえ

うねいゑ乃欠のこすもい〜〜〜  
 なごた〜せく神〜飯ひろひ〜いゑのうら  
 もの〜きぬか〜ら〜わうか〜をた〜  
 きに〜ち〜はを〜はひ〜〜た  
 ー〜り〜けり

おたら海の舟小さのといえよ  
 きこめたえよんおー海をり  
 舟なる目と乃〜〜〜  
 やた〜すや



母一の心、わの結よ、あゝぬ、神のまじり  
もならともあはれ、ま里つ、月を忍び、うれ、  
申す、可なり

おぼか、い月をも、そ、志、神そ、こ乃  
つも、ま、いひと、乃老と、照、か、との

む、一、の、あ、う、ぬ、た、と、こ、わ、あ、ふ、り、に、ま  
さ、わ、る、人、を、お、も、ひ、ひ、け、て、と、一、入、る、  
人、一、ま、の、ま、ま、を、息、一、ふ、い、あ、ち、ま、い、な、く  
い、神、の、神、す、う、ふ、よ、ま、お、ほ、と、ま、せ

母一、結、お、な、ま、人、を、い、そ、と、お、も、ひ、あ、ら、わ  
り、神、の、あ、は、れ、あ、お、も、ひ、い、い、ん、は、羅、を、あ、は  
も、れ、う、一、可、り、そ、も、い、い、つ、あ、ら、る、を、い、あ、あ  
た、い、う、ま、ま、い、く、う、い、う、い、う、い、う、い、う、い、  
お、も、一、あ、ら、わ、り、お、お、お、お、可、り、つ、け、は、

さ、く、う、花、り、よ、い、う、う、う、う、も、よ、ほ、よ、と、あ  
あ、ふ、た、乃、そ、か、い、お、お、お、お、よ、の、こ、と

あ、い、ふ、ら、り、く、も、あ、ら、あ、  
あ、い、一、あ、い、の、あ、い、ま、い、あ、い、あ、い、あ、い、

三月つこもわかれり

木志めとも春風かありのきよ乃日の  
ゆふくもふさくなわよらるる那

昔恋しき小たはとみれと女に誓う  
うこを大にさ誓えよある

あーこころなむ志小舟いづうまひ  
おまかへ旅羅んし旅人もなえ

あーあさひかハ心願くさるよなふ  
人成たもひけたもきめはこころなり

ぬふ来き海にやあわらんしーそたもひ  
おきくたもひさのちひてよあ家

あふみく忍ひハすーあうへなく  
たふさの願きくらしあめらわ

あふもかへはこハ世のことりあり  
やありけしん



昔にもいふやうに伊かきまらせうおにや  
 こすまのなわすけにむねにむねとてあわ  
 りとて子あはれなるおわらへていふかす  
 こすまのなわすけとていふかす  
 昔にもいふやうに伊かきまらせうおにや  
 こすまのなわすけにむねにむねとてあわ  
 りとて子あはれなるおわらへていふかす  
 こすまのなわすけとていふかす

とが人をなほしつと傳へき物ふな是あり  
れ教とくうう志てまうくやれ里々教時ハ  
何よりなんあわも教

秋遠教を春日わひくころのあれや  
わひ見よあわやちへまきるん

わが舞よあわら教をん田ぬ

らこのあきはやつ乃をよむおまうや  
もさらも舞もともすりこうちれ

やうー三季遠なききなりつわうまら海男

あわらわ女のほかうまらるをつ孫有り  
かりてよりひわらわらわ伊うる物こ志  
一舟たひえんしんおぼつ、思くおひひ  
はあ教こやすこーし遠かきむこひひ  
く舞六女いや志乃ひておひーす  
あひよらわもあうくわなとーくおとこ

ひこほ志よこひいまさわねあ毎の何  
通たら高勢お城のまうやうよ

このうへにえうくわひすーくわ



昔松とてあけり女坂やかくりすこも月日  
 鹿小夢のつと本す一何しねは心くしとぞ  
 思ふんやまゝくい思ふとせりりりりりり  
 こぬ月乃もあけりあわらぬを女君にあさ  
 ひとつよたつそまにらまぬひをいせ  
 たすいぬハぬえりのこもあ一あしうさ  
 ちと清ぬたらつとくくわとあゆいとあ清志  
 りこ一何れぬぬよたらたむ時あなつ頃  
 あしやといつわりりりあきまらつとつをひた



こころいよわろお人のもていおせし  
なわとくせちてたに業あかりん  
女北野うとまんうにむかふ小きたわさ  
まげこの女かえり乃り流もうちをひろは  
きくこつてかえりわき流るる坂こせわ

あまのけいひいふうもあうなく  
本業あもきくえまこつあわけ

さかきをかきうこころの人坂こせいの秋  
なせとくこいぬさくをうくのち流井に

あまのけいひいふうもあうなく

こころいよわろお人のもていおせし

なわとくせちてたに業あかりん  
女北野うとまんうにむかふ小きたわさ  
まげこの女かえり乃り流もうちをひろは  
きくこつてかえりわき流るる坂こせわ

あまのけいひいふうもあうなく  
本業あもきくえまこつあわけ  
さかきをかきうこころの人坂こせいの秋  
なせとくこいぬさくをうくのち流井に

神々夜日神一おなちの頼およふ

花々花らわりのひともれ老くの

心とりのあはれ海ありあふ

むーおほきおほいまうち君とあふ

たりのわつかうまの海にとも月りわ

不梅依流らわえを有りたー後つけて

ままの海とを

わ、たのむ美かた免ふとおりの飛ハ

とた志もわのぬまのりささきさう

やよかえたをまわらわの神の心

くまのわのけひさつひのり

はつりひを



起り松をの言場遠ひをわ乃と母、  
 かひ有りさ。たのり家車に女井かほり  
 きすすささるわほりり小みえ凡神人作得  
 なわらりたせこ乃ま〜〜やりり歌  
 ますも何〜ひえもさ廻人の怒り〜ハハ  
 何やな〜〜やなめ〜〜さむ

ぬ

心通〜ぬが家あやゆ〜ねき〜つり心  
 たのひ乃〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜



ぬせらるるもよむらゝんかこもにきくさむ  
ら祈六すまふれと志井くらま勢は神六  
うくお舞

きくはみ乃志る小かくあゝ人を  
あむ志るまはあふれけけあも  
なとらと一りむら世やひひれ人  
た少く乃あい花のさうりに  
前氏様もくさるゆる  
あむいひれあれ人うきく  
あむいひれあれ人うきく



寄書といふはわらわを哥にまわらばいと  
乃たわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
ももあはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
ももあはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
うむとくを思ひしむらわらわあてたふしの  
このうたはこゝろを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの

うらまを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの  
あはれなわらわを思ひしむらわらわあてたふしの

人さきわかへらなをせたり——たきと物や  
ゆ——あわらせかものらわえふり——あ  
なをたし——うらよえら——や

よけうみのあしと——人をいふかした  
めくりせよともたのまは——部

こ神ハ神宮乃ものえよまひくる車有  
かとあこえらわら神ハえき——てあつり  
た下ひ有——りちとが舞

甘——かこ——うては——ぬ海——としひ

やちるまの神の女

志しきいけみんらなむむきすいそ

あふりぬとあか人もあ——て

あつらわら神ハあふり——と思ひらあは  
らさ——をいやまさちわけり

あつらわら神ハあふり——と思ひらあは  
あつらわら神ハあふり——と思ひらあは

ちりやあつ神代もきるはたつこかは

うら神みおしりぬくこあは





昔あてふふあおしこぢりけわろけ男漢しと  
 あわら敷人依肉記ノノあわらけら後りとの  
 也ー遊まじとりの人らりのあわらさきと  
 備りかもしるはあえむたきくー  
 かすすしと壘もりのひきすすすいんやまを  
 しまさわらけ人のあや一あや人あむ城  
 しましてかきさそやわらわめままひり  
 せわさるたとののよあ家  
 流せし乃なりあよませらるなご大川

袖乃をひらきあふりもあ

ぬきまのたきぬきりりあ

あき忍こし袖ひひつりめなん

あきふかときまのたまん

あつこのれ神はたはりいづりあ

あつてまきふきりあきあ

あつりふたりあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

この雨にふりしとらりあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

あきあきあきあきあきあ

とつ祿のこよききりしひたりをきく  
たひきおれおれ

よめもたうを祿のあはたぬく田よは  
水こうまきまおめち小羅祿也

むーおきこともならの人を宇ーふ  
ふ祿かともこやわらぬ

花よわも人こそあこになわたり  
い祿まきまおこひんとかん

若おやこみうりにうふ女あわらうれ

かよじわこひ愛有なん見え隠い  
はつといつわらぬ男

忍ひあまらおよー玉のあ祿ふん  
おふめく見えハたまむひせ

むーおきこやむこいなき女のもも有  
おくなわすーく祿をとよふ屋うま  
いひやわきおれ

いよー入ハきもや志り世今そ志祿  
備えぬ人まこい祿おれとは

五

志のひも内志誠守はるもとけおくに  
うたふおこととえこひすう何故へま

又五

惡志とハせしもいほ一志たひもお  
兜らんを人ハうれと志うた舞

おーおやこねんこ海へりソひちあわ  
くうぬのこやさまにたわふふ神へ

ままたあ海乃志ほやく煙風をひひこ

おもるぬかふふたさひきりくも

おーねこやもウスーてめえ

おのこぬいのち乃わとに志誠こ

いのこーあまらあ誠雅人

昔仁木儀忍あて誓り川有りりかう

新くる時いまハはたことりをもふく思ふ

中もと何れにさふこふれをたほのあの

たかひもくさあひりあままひんあすわ

あわあぬのたもさひりあひりあ

おぼたぎひ人服とく免うかわく恥も  
あふりりわとまき たらもたなく恥る

おぼやけのゆくりまきりりりり重をの  
かふりひ我おのひん神とわりのかゝぬ人  
あゝおひりわとま

かゝりりら乃くふにぞおとま女は免り  
おとま言こくひなんとりあゝお女  
り飛うてひまはえふ其けをたふさ免と  
ておまはみ言こくまといりりりりりり

のまおえいりり

おまはぬえりりやくりりりりりり

おまこくまんのわりの化なわりの

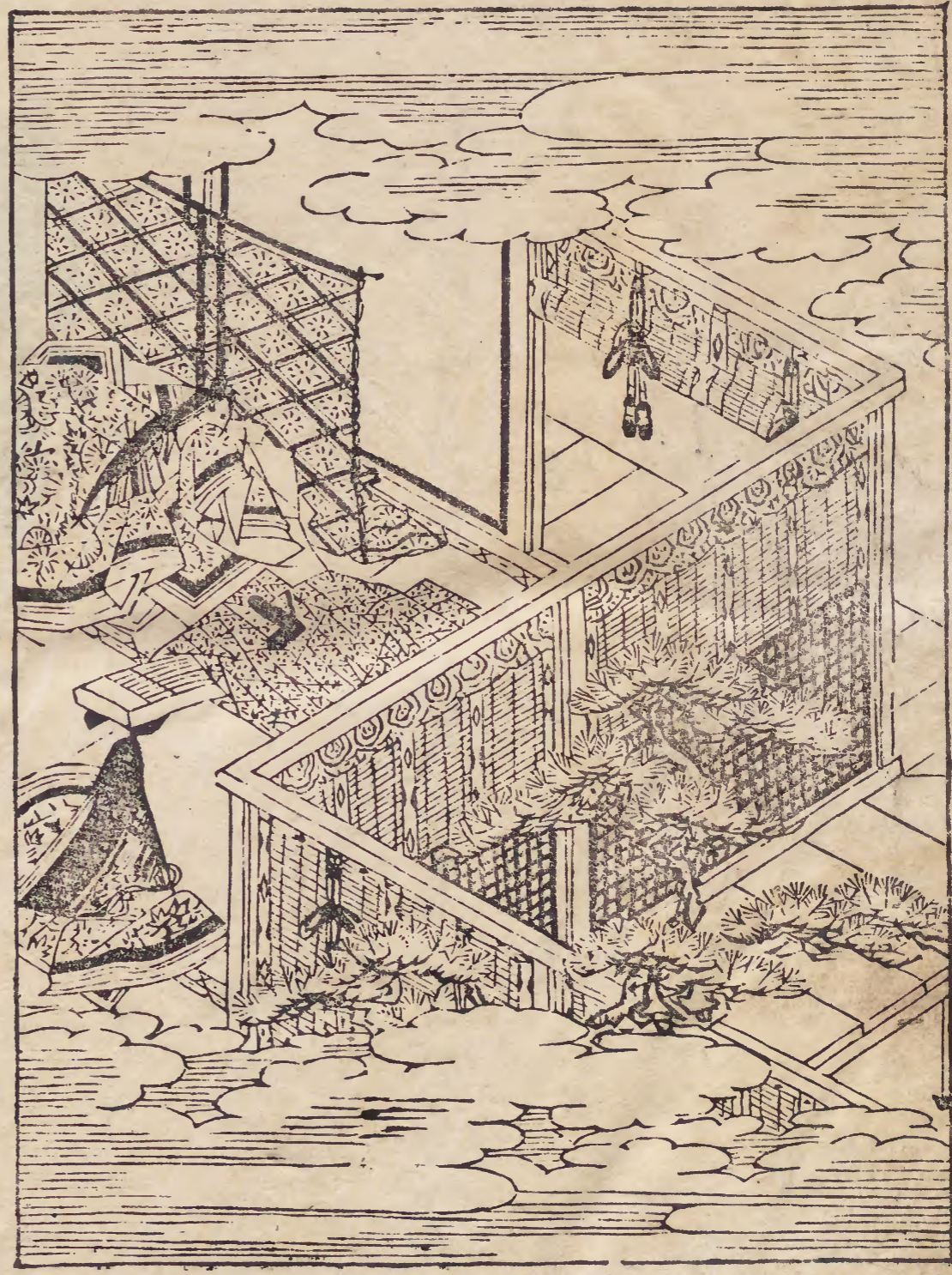
首おとくすくろよみら乃くたまきま  
りりりりりりりりりりりりりりりり

なままじりわえゆるこ志海深えまじり  
ひさしりりりりりりりりりりりり

おろりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりり

すうーみくとほむるりりきー臨ひんわ  
我んそもひきーくたわぬほりー乃  
まーのひめおりくそぬぬらん  
おほむ神けきやうー臨ひん  
すけま志とえを志うがえんはつきの  
ひさーきせよわいらひんうめま  
すーたよこひきーくたわぬほり  
あーくもまーほりわこせといつわ  
り神へ

玉かゆーふ本あはたすーなわぬ  
たしぬのうれーけもあ  
若ぬのあふたわおー乃うたえんを  
うる物ともはえん  
かえんうーいけんたわぬほり  
わいんことあもあーほーものを



びーたごの女のまゝよへすとおやうた  
 候へん藤津もりにー乃ひもれまきこえ  
 てのちやとるゑ

あふこふるはれはれまきあせせなせ  
 清道なき人のふへ乃ひ忍ん  
 びーたごの梅は保すのあふりぬきそ  
 人のまわりつらさを忍そ

うらひすの花をぬふてふりさきも那  
 めるめ候人なりまきそかへせむ

ぬー

うらひと花をぬぬとふくはいる  
おもひをうけとほーとーとせん

甘ー男ちまこれういよ、あやまは人可

庭に花の井う、落をゆて可むひひ

たのえうーひもなきをなわけわ

花ひひやまといーもきん

若おとー、あわらわふりときふひえくあめ

まよあー、あまかこー、やまひん

かゝあゝとあゝあゝわ

年をいへ、はうー、はとあ出ていなる

いよーよかゝを、あゝとあまわな舞

女ぬー

あゝあゝはうーとあわてあをいん

あわたりよにやああ、いこさ、あん

あゝあゝあゝあゝ、ゆるむとああ

あゝあゝあゝ、あゝ

甘ーあゝあゝ、あゝあゝあゝあゝあゝ





此の如くありぬる家  
 忍小書片いふてうらまひもやみぬへ家  
 我とあとも一き人志ある世に  
 若おとこ一且はるひに心持一ぬへお  
 市一は世に

清井一小申く迄とけり一あはれ  
 暇日あとも一人おもむきあり一扱

伊勢物語新刊物余需勘按邦系抄類  
門一中之奧書云此物經之根源古人之說  
不同之如命以天福年所被高孫女書之  
然之於恐有訂按之造次也又圖書中  
之說分以為上下是雖不足動好女人情  
取為之悅惟多眼目而已

慶長戊申仲夏上浣

也是也



